

ハツ場ダムこのまま造っても大丈夫？

現地視察報告：ふじしろ政夫

青空ですが冷たい風の中、真っ白に埋もれたハツ場ダムの現地を視察（2016・1/25）。国交省の職員に道の駅ふるさと館から上流の長野原草津駅までの間と、ダムサイトの右岸と左岸の工事現場を説明していただきました。

湖面 1 号橋・2 号橋・3 号橋すべて出来上がっており、新しい川原湯温泉駅も付け替え道路も着々と整備されていました。本体工事である川原湯（右岸）と川原畑（左岸）、そしてダムサイトのリム部の基礎処理をする為のトンネル・リムクラウドトンネルを見ました。熱水変質帯や亀裂にコンクリートミルクを入れて基礎をきちんとするものです。

又、左岸のダムサイトのすぐそばの道路わきのがけに“熱水変質帯”を見ることができ、その変質の為崖がずり落ちて道路の縁石が盛り上がっていました。

更にその道路は大同特殊鋼のスラグが入れられており、そのため道が波打ってくねっていました。

ハツ場ダムの工事は 24 時間行われており夜間の発破もあり住民の生活を壊しています。

吾妻川も掘削され川原湯温泉の旅館も今年中にはすべて移転、湖面橋や付け替え道路とダンプの行きかう様子を見ると、吾妻渓谷の姿は巨大資本が入って重厚長大の公共工事を推し進める自然・生活破壊の工事現場そのものです。



ダムサイト・貯留池周辺・代替え地の地質の悪さなどダムの問題点は前日のシンポジウムでも指摘されました。

1100 万年前の川原畑層、300 万年前の林層などまさに火山地帯の熱水変質や割れ目が多くコンクリートミルクを注ぐ“グラウチング”が行われています。本来はこのような地質にはダムを造らないとのこと。酸性熱水変質の認識も硫黄含有の調査もされていない状況で工事が進めば工事材の劣化が心配。PH3 の酸性、硫黄水だけでなく応桑層の岩は水を加えると容易に崩壊してしまうビデオの映像にビックリ。

多くの現場で熱水変質帯がみられそのままでは地滑り・崩落が心配されます。代替え地など盛土した素材の 77%が変質物質ですすでに劣化しておりそこでその様子がみられるとのこと。

地質が悪い上に酸性の吾妻川の水の問題は、現在行われている“石灰を入れての中和”がヒ素の入った中和物質を堆積させると言う問題点もあると指摘されました。（嶋津さん）

代替え地の土地の造り方は熱水変質があるうえに 30mの高盛土と言う形で造成されているので地滑りが心配されている上に大同特殊鋼のスラグが使われたのでは？と言う事も心配されています。特殊鋼のスラグは六価クロムやフッ素の有害物質の問題と水を含むと膨張すると言った問題点を抱えています。

いろいろな課題があり嶋津さんが指摘するように事業費は更に 500 億円以上増加するのは火を見るより明らか。事業費の増額に反対してる千葉県はどう対応するのだろうか？

こんな危ないダムはやめる必要があるのでは・・・熊本県にある荒瀬ダムは 2012 年から撤去工事が行われています。“脱ダムの政策”を真剣に考え公共事業の停止時には住民にきちんとした“生活・街づくり再生施策（数千億円かけても）”を実施する仕組みづくりが必要なのは。